

逆流性食道炎に対するプロトンポンプ阻害薬の漫然投与防止を目指した取り組み

総合メディカル（株）そうごう薬局 新田原調剤センター店¹⁾、行橋駅前店²⁾、
行橋北泉店³⁾、福岡今宿店⁴⁾、総合メディカル（株）⁵⁾
北奥 彩¹⁾、栗山 桃子²⁾、小川 優太³⁾、林 祐一朗⁴⁾、山下 智広⁵⁾

【目的】逆流性食道炎再発予防の目的でのプロトンポンプ阻害薬（以下、PPI）使用について、長期服用している患者が散見される。そこで症状経過が安定している患者に同意を得て、医師と薬剤継続を再考し、処方変更された場合にパンフレットを配布して、日常生活上の注意を行う取り組みを開始した。今回は本取り組みの成果と中止後の患者経過等から課題を検討した。

【方法】2022年4月11日～6月30日の期間、近隣そうごう薬局10店舗に来局した患者について、薬歴よりPPIが8週間以上継続され、NSAIDs・アスピリン腸溶錠を併用していない方に対し、改めてPPI開始の契機、服薬状況、消化器症状の有無、薬剤継続の意向をアンケート形式で確認。逆流性食道炎の再発再燃防止目的で処方されていると判断された患者で、消化器症状なし且つ服薬アドヒアランス良好である場合に、処方変更希望について確認し、同意が得られた方について、事前に医師に了承を得て、PPI中止・変更を検討する対象患者として、トレーシングレポート（以下、TR）にて報告した。薬剤変更・中止となった患者については、逆流性食道炎患者の日常生活上の注意に関するパンフレットを配布し、経過観察を行った。

【結果】期間中207名の対象患者のうち134名（64.7%）は、症状が安定しながら毎日PPIを服用していた事が分かった。また140名（67.6%）は処方変更を希望しないと回答した。症状が安定しており減薬希望のある38名（18.3%）のうち27名について、患者の同意を得てTRを提出したところ、8名は薬剤中止、3名はH2ブロッカー、消化酵素剤など他剤へ変更、16名は処方変更はなかった。処方変更6ヶ月後、薬剤中止の8名中5名は症状再発の為PPI再開、3名は中止のままとなっている。また処方変更となった3名について、2名は変更後の処方を継続、1名はH2ブロッカーへ変更後PPI頓服服用を経て、最終的には逆流性食道炎に対する処方薬はなくなった。

【考察】今回の取り組みにより、症状が安定しながら8週間以上PPIを服用している患者について、その多くが処方変更を希望しない事が分かった。一方で、薬剤中止となった患者の8名中5名（62.5%）で症状が再発したことから、服薬期間や患者の減薬の意向だけで処方変更を提案することはせず、症状経過を慎重に聴取しながら、医師と処方継続や変更について検討する必要があると考察した。